

SCSI Board
For X68000
SASI
MODEL

BANCHO NO AIBO 番長の相棒



番長の相棒V2の主な特徴

- ① SHARPさんご謹製の純正SCSIボード「CZ-6BS1」の互換ボードです。
- ② 標準の内部ROMの他に、FLASH ROM、PROMが使用可能なため、純正ROMや、エミュレーター「XM6」さんで抽出した、最新のSCSI ROMを選択して利用できます。
- ③ ホットスタート用に外部電源を用意しているため、起動時に本体電源に負担をかけない起動が可能です。



安全にご利用頂くため、ご使用の前に必ずお読みください

本機シリーズは、X68000シリーズの拡張バススロットへの接続を意図しています。X68000シリーズの拡張バススロット以外のインターフェイスの接続はしないで下さい。電圧の相違などにより本機だけではなくパソコンの故障の原因となる恐れがあります。

バススロットへ接続する際には、頭髮やヒゲの巻き込み、指の挟み込みに充分ご注意ください。頭髮がなくなっても責任は負いません。

本機は食べることができませんので、決して口にしないで下さい。万が一、本機を食べてしまった場合には、速やかにかかりつけの医師にご相談ください。小さいお子様の手の届かない所でご使用ください。

高温・結露する場所でのご使用は、本機の故障や寿命を縮める原因となりますので、充分ご注意ください。未永くご使用なされるため、なるべく涼しいところでご使用ください。本機から発火・発煙・異臭がする場合には、本機の使用を即刻中止してください。本機を、医療機器など生命にかかわる装置で使用するはおやめください。もしかしたら最悪の事態になるかもしれません。

クラシックパソコンでご使用頂くという性質上、本機使用時のパソコンの故障については責任を負いません。本機接続後に起こったパソコンの故障は、そのタイミングで他が故障した可能性が考えられます。本機の接続・着脱の際にはコネクタの先をしっかりと持って優しくお取り扱い下さい。本機は、腫れ物を扱うかのごとく丁寧に使用頂くのが、かなりベストです。



本機のほかに、ご用意いただくもの



X68000 SASI
モデル



変換番長などの
SCSI 機器



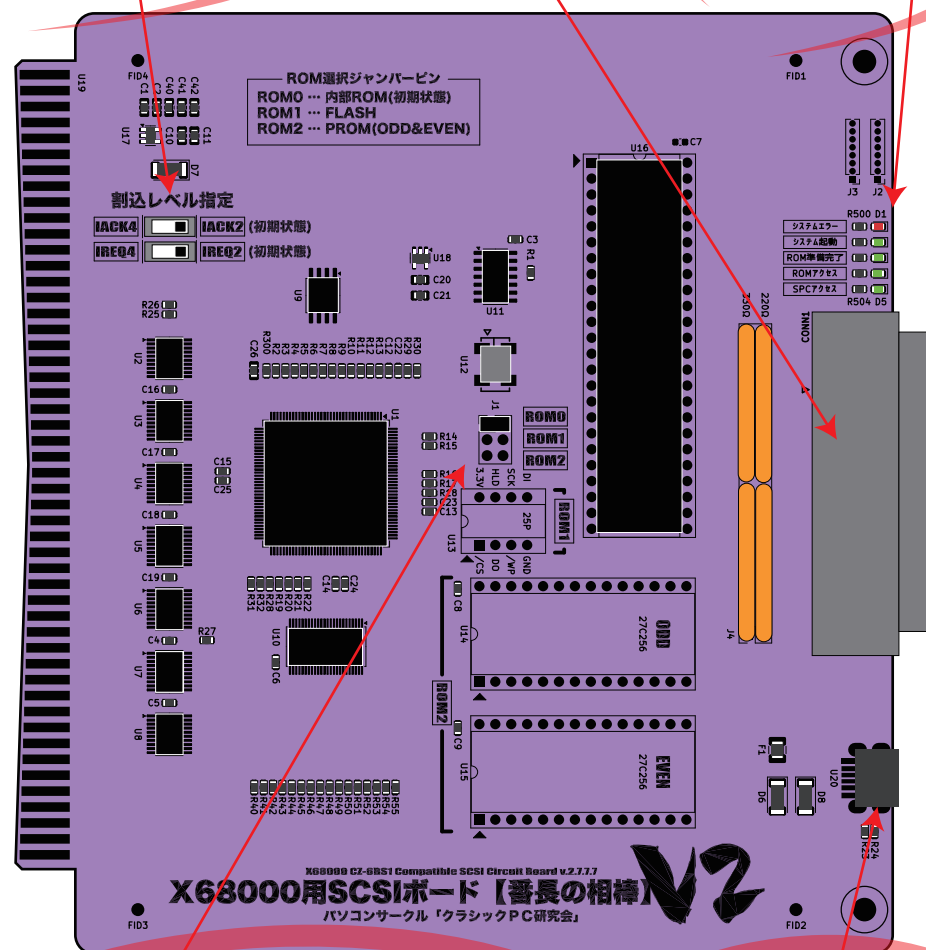
やる気

本機のサイズ (150mm x 140mm)

割込レベルスイッチ
レベル2/4でご利用いただけます。
通常はIACK2/IREQ2でお使いください。

SCSI コネクター
アンフェノールハーフピッチ(串でないやつ)がご利用いただけます。

動作確認用 LED
動作確認用LEDです。
詳しくは次のページのLEDについてをご覧ください。





「番長の相棒V2」を変換番長(HDD)を接続して使用方法

「番長の相棒V2」の一般的な使い方は、純正SCSIボード(CZ-6BS1)と同じく、**拡張スロットへ差しして/SCSIケーブルでHDDをつなげて/起動する**です。

- ① X68000の拡張バススロットへ「番長の相棒V2」を差し込みます。差し込む際には、しっかりと奥まで差し込んでください。
- ② 「番長の相棒V2」のSCSIコネクタへ、アンフェノールハーフピッチ型SCSIケーブルを接続し、ケーブルのもう一方へ変換番長やHDDなどのSCSI機器を接続してください。
- ③ FDDまたはSASIからHumanOS Ver.3を起動し、FORMATコマンドを打ち込みます。FORMATコマンドが起動したら、「SCSI装置」を選択し、フォーマットしたい装置名を選択してください。[装置の初期化]→キーボード[Y]ボタン→[領域確保]の順に実行し、[容量の指定]へHDDの容量を入力したあと、[システム転送:する]を設定して、[実行]を選択しフォーマットします。[終了]を選び、キーボードの[Y]を押してパソコンを再起動します。
- ④ 再起動後、再度、FDDまたはSASIからHumanOS Ver.3を起動したら、SWITCH.Xコマンドを立ち上げます。SWITCHコマンドのBOOT項目より、フォーマットした装置ID(SCSI0～SCSI6)を選択し、[終了]項目を選んで、キーボードの[Y](登録して終了)を押して、SWITCHコマンドを終了します。HumanOSのコマンド入力画面になったら、リセットボタンを押して、パソコンをリセットしてください。
- ⑤ リセット後、「番長の相棒V2」の起動画面が表示され、上記④SWITCHコマンドで指定した装置からHumanOSが起動します。



LED ランプについて

番長の相棒V2には、[システムエラー] [システム起動] [ROM準備完了] [ROMアクセス] [SPCアクセス]の5つのLEDランプが搭載されています。LEDランプの役割について説明します。

[システムエラー]LED …「番長の相棒V2」で使用しているFPGA ICの起動に不具合がある場合に、赤く点灯します。このLEDが点灯している時には、「番長の相棒V2」が、致命的な故障を起こしていると考えられます。

[システム起動]LED…電源が供給され、「番長の相棒V2」のシステムが起動すると、緑色のLEDが点灯します。拡張スロットへ差し込まれた状態で、パソコンの電源をONにしているにもかかわらず点灯しない場合には、パソコンから電源が供給されていない、または故障していることが考えられます。

[ROM準備完了]…ROM1 (FLASH ROM)が選択され、ROM1のソケットにセットされたROMからデータの読み込みができた際に、緑色のLEDが点灯します。ROM1を選択しているにも関わらず点灯しない場合には、ROM1からデータをうまく読み込めていないことが考えられます。

[ROMアクセス]…X68000から、SCSI ROM領域へのアクセスがあったときに点灯します。

[SPCアクセス]…X68000から、SPC(SCSI PROTOCOL)へアクセスがあったときに点灯します。SCSI機器へのアクセスなどの際に点灯します。



外部電源(USB-C)について

通常は外部電源は不要ですが、クロックアップや電源の立ち上がりのタイミングの差異により、パソコンの起動に「番長の相棒V2」のシステム起動が間に合わず、認識しない場合があります。前もって外部電源より「番長の相棒V2」へ電源を供給した状態で、パソコンを起動することにより、安定して使用することが出来る場合があります。もし、「番長の相棒V2」が認識しない場合には、USB-Cケーブルで電源を供給したうえで、お試しください。



SCSI ROMの選択方法

「番長の相棒V2」は起動ROMを、ボード上にある「ROM0 / ROM1 / ROM2」のジャンパーで選択することにより、内部ROM/FLASH ROM/PROMの3種類から選択することができます。

ROM0 : 内部ROM(初期状態)を選択することで、「番長の相棒V2」のFPGA内にある内部ROMより起動することができます。

ROM1 : FLASH ROMをソケットへ搭載し選択することで、FLASH ROMから起動することができます。FLASH ROMは25シリーズ(M25P16/W25Q80など)の8pinが使用可能です。

ROM2 : EEPROM / EPROM を搭載し選択することで、PROMから起動することができます。PROMは27シリーズなどが使用可能です。純正ROMから起動したい場合などに、ご利用いただけます。ODD/EVENのお間違えにご注意ください。



トラブルについて

こちらの頒布品は、拡張スロットに差して、ケーブルをつないで、機器から起動するといった感じの、使用方法が単純がうえにトラブルの想定が難しいアイテムとなっております。色々お試しいただきましても、どうしても動作しない場合には、当研究会までお問い合わせください。

Q . FORMATコマンドを起動したが「SCSI機器」がない。

A . HumanOSのVer.2の場合にはSCSI機器が現れませんので、Ver.3をお使いください。またHumanOSVer.3をお使いでも、「SCSI機器」が現れない場合には、番長の相棒V2がパソコンに認識されていない場合があります。その場合は、USB-Cコネクタより外部電源を供給した状態でお試しください。

Q . FORMAT後、HumanOSが起動しない。

A . SWITCHコマンドのBOOT項目で、起動したいID(SCSI0-SCSI6)の設定を見直してください。

